

〔資料〕 **東北に知の梁山泊あり**
 —— アカデミーとしての福大経済 ——

【0】 日本における高等教育の制度的・実態的変遷と福大経済の歴史

【高等教育の制度的画期】	【福島大（経）の転成】	【学部研究教育の推移】
1887 ● (0) 明治の定礎＝大学の開基（先立つ歴史略） (M. 10) 東京大学設置（国家に必要な指導的人材の育成・ ・ 先進欧米文化学術の摂取） ・		▼高等教育のエリート段階 ¹⁾
1918 ● (1) 大正の改革＝ (T. 7) 「高等諸学校創設及 ・ 拡張計画」	1921 ○旧制福島高商 (T. 10) （信夫郡清水村森合）	※「梁山泊前史」 ↓
	'41. 3ヵ月繰上げ卒業 '42. 6ヵ月繰上げ卒業 '43. 在学徴兵延期停止，学徒出陣	※「第一期梁山泊」 ↓
1944 ★ 高等教育の戦時再編 (S. 19)	☆旧制福島経専 勤労働員	
1949 ● (2) 昭和の改革＝ (S. 24) 「戦後民主改革の一環」・大学民主化（標的・旧制 ・ 高校・帝国大学）	○新制福島大学（経） 高校・帝国大学）	※「第二期梁山泊」 ↓
60代末 ★ 大学紛争 (S. 45)	・ 学長退陣事件（'68） ・ 理科棟封鎖（'69）	※「第三期??」 ▼高等教育のマス化段階 ²⁾ 1963 =15% 突破
	1979 (S. 54) ☆二期校制廃止（共通一次導入），短大→夜間主 1981 (S. 56) 森合→金谷川	
2004 ● (2) 平成の改革＝ (H. 16) 「臨調行革路線の一環」 ・ 高等教育の新自由主義（グローバル化）	○大学法人福島大学 （経済経営学類）	▼高等教育のユニバーサル 2005 =51.5% ※「第四期？」

〔註〕 18歳人口中、高等教育進学率

1) エリート 段階＝ 15%以下/ 2) マス化の段階＝ 15%→50%/ 3) ユニバーサル 段階＝ 50%以上
 （カリフォルニア大バークレー 校・マチン・トロ教授）

【I】旧制福島高等商業の時代（1922）

—— 梁山泊前史 ——

（1）第一の改革＝大正の改革/ 「高等諸学校創設及拡張計画」

原敬内閣、予算4,450万（内；御内帑金1,000万）円

大正七年(1918)から六ヵ年計画で新增設・昇格（複線型高等教育）

	高等諸学校	校数又は学部数	実 現
新 設	官立高等学校	10	新潟・松本・山口・松山・水戸・山形・佐賀 弘前・松江・大阪・浦和・福岡・静岡・高知 姫路・広島（他、東京 7年制） 17
	〃 高等工業	6	金沢・横浜・広島・仙台・東京工芸・神戸 浜松・徳島・長岡・福井・山梨・明治専門12
	〃 高等農業	4	鳥取・三重・宇都宮・岐阜・宮崎 5
	〃 高等商業	7	福島等 ⇨別表 13
	〃 外国語学校	1	大阪外語 1
	〃 薬学専門校	1	富山 1
	帝国大学学部	4	東大・京大（経）／東北・九大（文） 4
昇 格	医科大学	5	新潟・岡山・千葉・金沢・長崎 5
	商科大学	1	東京商大（最初の官立単科大） 1
そ の 他	公私立医科大新設 人阪・愛知・京都・熊本/ 慈恵 私学の大学昇格 慶応・早稲田・日本・法政・明治・中央・国学院・同志社 その他、公立・私立の高校の創設や外地関係（略）		

（2）高等商業学校の創設

ナンバー	旧制官立高等商業学校	備考
第1 高商	東京高商（1887）⇨東京商大（1920）	他に、外地に： 京城高商（1922） [現ソウル大学校] 大連高商（1941） [廃止（1946）] 公立 大阪高商（1901）⇨ 大阪商大（1928） [現大阪市立大] 横浜商業専門学校（1928） [現横浜市立大] 県立神戸高商（1929） [現兵庫県立大] 私立略
2	神戸高商（1902）⇨神戸商大（1929）	
3	山口高商（1905）	
4	長崎高商（1905）	
5	小樽高商（1910）	
6	名古屋高商（1920）	
◎7	福島高商（1921）*	
8	大分高商（1921）	
9	彦根高商（1922）	
10	和歌山高商（1922）	
11	横浜高商（1923）	
12	高松高商（1923）	
13	高岡高商（1924）	

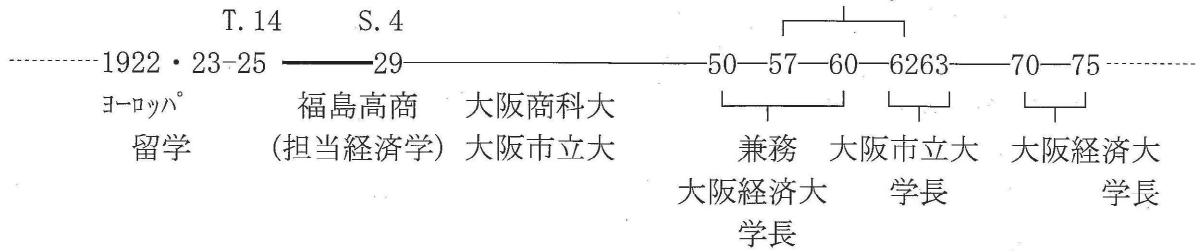
* ①1918.12 拡充計画発表、②1919.1第7 高商福島県設置決定、③1919.3 用地森合決定
④1921.12 山口高商教授蒲生保郷初代校長任命、⑤1922.4 入学式、1924.10 校舎落成

【Ⅱ】梁山泊前史の研究者

◎【福井孝治】(1899-1977)

経済学・ゴットリッヘの代表者 [師事=河上肇]

(旧) 大阪商科大学長



主要著書

『生としての経済』(最近経済問題叢書、甲文堂書店、1936、理想社、1944)

『経済と社会』(日本評論社、1942)

『経済学の基礎にあるもの——経済学および経済学的認識の諸問題』(東京出版、翻訳 1958)

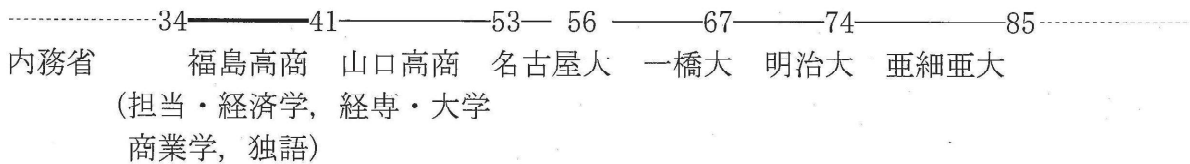
ゴットリッヘ『経済の本質と根本概念』(校閲、岩波文庫、1942)

カール・マンガー『経済学の方法に関する研究』(共訳、岩波文庫、1948、他の版も)

◎【坂田太郎】(1903-97)

社会思想史 [師事=山内得立・高瀬壮太郎・大塚金之助]

大学院 S. 9 S. 16



主要著書

『イデオロギー論の系譜』(民友社、1948、法律文化社・新文化叢書、1954、こぶし文庫)

『社会的成層の問題、社会思想史の一視点』(第三出版、1985) 1995

文献目録

『フランス社会思想史文献目録』(春秋社、1952)

『わが国における重農主義研究文献目録』(勁草書房、1974)

翻訳

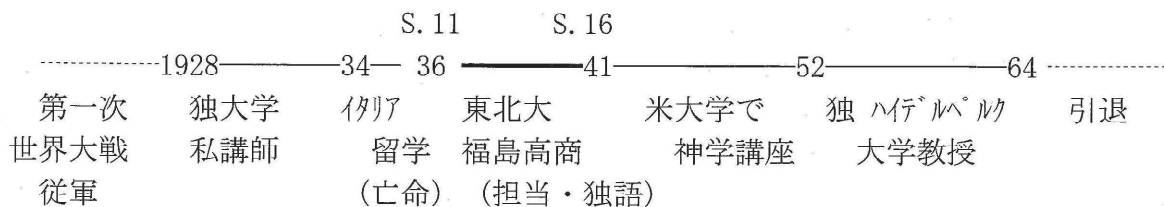
ウェーバー(ヴェーバー)『社会学的方法的原理』(哲学叢書、岩波書店、1930)

ケネー『経済表以前の諸論稿』(春秋社、1950)

ケネー『経済表』(春秋社、1956) その他共訳。

◎【カール・レヴィット】(1897-1973)

哲学 [師事=マックス・ウェーバー、フッサール、ハイデッガー]



主な邦訳書 (21点)

- ・『ニーチェとキルケゴール』 (弘文堂)
- ・『ヨーロッパのニヒリズム』『ヤーコブ・ブルックハルト』 (筑摩書房)
- ・『人間と人間性』『ヘーゲルからニーチェへ』『世界と世界史』『知識・信仰・懷疑』『ニーチェの哲学』『神と人間と世界』 (岩波現代叢書)
- ・『ウェバーとマルクス』『ハイデッガー 乏しき時代の思索者』『近世哲学の世界概念』『学問とわれわれの時代の運命』『歴史の意味』『東洋と西洋』『ポール・ヴァレリー —— その哲学 思惟の概要』『キルケゴールとニーチェ』 (未来社)
- ・『ナチズムと私の生活——仙台からの告発』『ある反時代的考察——人間・世界・歴史を見つめて』 (法政大学出版局)
- ・『共同存在の現象学』 (岩波文庫) ・『ヘーゲルからハイデッガーへ』 (作品社)

【Ⅲ】高商から経専への移行 (高鳴り高まる軍靴の響き)

——第一期梁山泊——

(1) 高等教育の戦時編制

① 学校軍事教練の強化

信陵報国団結成 (1940. 12)

② 繰上卒業

3 カ月 (1941)

6 カ月 (1942)

③ 在学徴兵延期停止 (1943)、信陵公園 (わだつみ像・戦没者刻名碑・如春亭)

④ 経専に名称変更 (1944. 3. 29)

生産重視、商業軽視

理工・医系等戦争目的に適う高等教育拡充 (新設・増員)

商業転換 ┌ (商大) 東京商大→東京産業大・神戸商大→神戸経済大
縮小 └ (高商) 高岡・彦根・和歌山→工専 (その他経専)

⑤ 勤労働員 (1944 ~)

松戸、大寺、不二越 (富山)、会津 [日曹]、高萩 [日立] ・

日立 [本社工場] (1945. 7. 17 艦砲射撃で 5 名殉職、6 名の慰霊祭)

(2) 第一期梁山泊・水準凌駕の研究者群

[1940年代世代・昭和15年赴任組]

◎ 【中村常次郎】 1907-80)

経営学 [師事=本位田祥男] —— 第一期梁山泊の「キーパーソン」

S. 9

S. 29

秋田経済大学長 (事務取扱)

1931 — 34 ————— 54 ————— 67 ————— 74 — 75 ————— 80

東京大 福島高商・経専・大学

東京大

中央大

創価大

(経専校長・

経済学部長)

主要著書

『経営経済学序説』 (福島文化堂, 1946)

『川俣機業の構造』 (編著、岩瀬書店, 1954)

『現代経営のリーダーシップ (1)(2)』 (地方銀行協会, 1964 ・ 65)

その他、共著・編著・監修・論文無数。

◎【梶山力】(1909-41)

社会経済史〔師事＝本位田祥男〕

S. 15 S. 16

-----1934-----35-----36-----39-----40-----41逝去(享年32歳)
 経済問題 松山高商 辻堂で静養 福島高商
 研究所

主要著書

『近代西欧経済史論』(みすず書房, 1048)

翻訳

ニッティ 『ホルシェビズムとファツシズムと民主主義』(社会文庫、日本評論社, 1933)

ラングラー 『計画経済と流通経済』(日本評論社, 1934)

ウェーバー 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(経済学名著翻訳叢書、有斐閣
 1938、改訂復刻版、未来社, 1994)

ザムハルト 『高度資本主義 I』(有斐閣, 1943)

◎【熊谷尚夫】(1914-96)

厚生経済学・経済政策(師事＝河合栄次郎〔安井琢磨〕)

日本学士院会員

(兼) 経企庁

S. 15 S. 19 東北大 S. 29 S. 31 経済研究所長

-----1940-----44-----54-----56-----67-----69-----78-----85-----91-----
 日本 福島高商・経専-----福島大 大阪大 関西大 松阪大
 生命 福島大

主要著書

『厚生経済学の基礎理論』(東洋経済新報社, 1948)

『近代経済学』(日本評論社, 1956)

『資本主義経済と雇傭』(日本評論社, 1957)

『現代経済学入門』(日本評論社, 1960)

『経済政策原理・混合経済の理論』(岩波書店, 1964)

『日本の産業組織』(編著、中央公論社, 1973)

『厚生経済学』(創文社, 1978)

『経済原論』(岩波書店, 1983)

『現代資本主義の理論と政策』(創文社, 1986)

『経済学対話』(筑摩書房, 1993)

翻訳(すべて共訳)

モルガン 『国民所得と雇用』(渡辺太郎氏と共訳、東洋経済新報社, 1951)

ロバートソン 『貨幣』(安井琢磨氏と共訳、岩波書店, 1956)

ケインズ 『人物伝』(大野忠雄氏と共訳、岩波書店, 1959)

フリードマン 『資本主義と自由』(西山千明氏・臼井孝昌氏と共訳、マクローヒル社, 1975)

ヒックス 『価値と資本』(安井琢磨氏と共訳、岩波書店, 1995)・他。

◎【藤田五郎】(1915-52)

日本経済史 [師事＝中西寅雄]

S. 15 S. 24 S. 27
—1940—49—52—逝去 (享年37歳)
福島高商・経専 広島大 福島大
福島大

主要著書

『日本近代産業の生成』 (日本評論社, 1948)
『近世農政史論』 (御茶の水書房, 1950)
『近世封建社会の構造——日本絶対主義形成の基礎過程——』
(羽鳥卓也と共著, 御茶の水書房, 1951)
『封建社会の展開過程』 (有斐閣, 1952)
『近世福島県社会経済史文献目録総覧』 (未刊, 庄司吉之助氏と共著)

『藤田五郎著作集』 (全五巻, 御茶の水書房, 1970-71)
[解説] 第一巻＝大石嘉一郎、第二巻＝星埜惇、第三巻＝羽鳥卓也
第四巻＝大石嘉一郎、第五巻＝山田舜、回想＝小林昇

◎【増淵龍夫】(1916-83)

東洋経済史 [師事＝上原専録]

S. 15 S. 17 一時兵役
—1940—42—79—83
福島高商 東京商科大＝産業大＝一橋大 成城大

主要著書

『中国古代の社会と国家』 (弘文堂, 1960)
『歴史家の同時代的考察について』 (岩波書店, 1983)
『日本の近代史における中国と日本』 (トランスアート, 2001)

◎【小林昇】(1916-2010)

経済学史 [師事＝本位田祥男]

日本学士院会員 (1976) (1976) 福島大学(1999)
S. 15 S. 30 学士院賞 アダム・スミス賞 名誉教授
—1940—55—82—2010
東京海上 福島高商・経専 立教大 大東文化大
火災 福島大

主要著書(論文の他、編著・歌集・随想・回顧、英独文著書等を除く)

『フー・トリット・リスト 序説』 (日本学術論叢、伊藤書店, 1943)
『フー・トリット・リスト の生産力論』 (現代経済学叢書、東洋経済新報社, 1948)
『フー・トリット・リスト 研究』 (日本評論社, 1950)
『重商主義の経済理論』 (東洋経済新報社, 1952)
『重商主義解体期の研究』 (未来社, 1955)
『経済学史研究序説: スミス とリスト 』 (未来社, 1957)

『経済学の形成時代』（未来社, 1961）
『原始蓄積期の経済諸理論』（未来社, 1965）
『フリードリッヒ・リスト 論考』（未来社, 1966）
『経済学史評論』（未来社, 1971）
『国富論体系の成立；アダム・スミス とジェイムズ・スチュアート』（未来社, 1973）
『東西リスト 論争』（みすず書房, 1990）
『最初の経済学体系』（名大出版会, 1994）
『経済学春秋』（未来社, 2001）

『小林昇経済学著作集』全11巻(9巻, 1976 ～79/2巻, 88 ～89)
月報〇号：②吉岡昭彦「〈小林校長〉」、③渡部福太郎「おばあちゃんと昇」、
⑤星埜惇「〈スモール・こぼやし〉の記」、⑥松井秀親「書けざるの弁」、
⑦大石嘉一郎「福島時代の小林さん」、⑧毛利健三「西洋経済史研究者が見た
リスト」、諸田実「リストの跡を訪ねて」、渡辺源次郎「私の〈小林先生〉」
⑨高橋昭三「私が垣間見た小林先生の〈実像〉」、富塚良三「小林さんと私」

訳書

リスト 『農地制度論』（世界古典文庫、日本評論社, 1949、岩波文庫, 1974）
リスト 『経済学の国民的体系』（岩波書店, 1970）
ハリス 『貨幣・铸貨論』（東大出版会, 1975）
ジェイムズ・スチュアート 『経済学原理』（監訳、名大出版会, 1993・98）

【Ⅳ】経専から新制大学経済学部へ

——「新樹の新彩」（小林昇）[1950年代世代・昭和25年前後赴任組]——

（１）第二の大学改革(昭和の改革)

ドイツ 祖型の大学からアメリカ発の高等教育への旋回

①複線型⇒単線型(1県 1大学)

格差→平準化

②エスタブリッシュメント 養成

⇒学術研究・伝授

③デカンショ 型エリート教養⇒

市民的教養教育

④教員養成の大学化

教えのプロ→自律的知の裏付けをもつ自立的教師像

（２）第二期梁山泊の形成

——1960年前後の福大経済の陣容——

1960	氏名	1959～60年代初頭の間に担当した講座	中途転出等
経済学 部 教 授	玉山 勇	商業概論・経営史	[学長]
	金田 良造	農業経済論・経済地理・経済政策論	
	榊原 明治郎*	統計学原理・経営統計論・商業数学	
	田中 三郎	金融論・銀行論・国際金融論	
	中村 嘉吉	経済原論・経済計測論・経済統計論	[学長・事] ⇒岡山大
	野村 正次	国際経済論・交通論・貿易論・外国経済事情	
	羽鳥 卓也	社会思想史・経済社会学	

経済学部 学生定員 140	助教授	小野 賢一 大石 嘉一郎 大谷 龍造 斉藤 謹造* 庄司 吉之助 田添 京二 富塚 良三 星埜 惇 松井 秀親 三宅 皓士 森泉 章 諸田 實 山岡 伊三郎 矢島 基臣* 山田 舜 渡辺 源次郎*	財政学・日本財政論 地方財政論・工業経済論・日本経済論 経済原論・景気論 経済原論・景気論 経済史概論・地方経済史・日本経済史 経済原論・社会政策 経済原論 農業経済論・日本経済論・工業経済論 社会科学概論・憲法・労働法 経営総論・商業経営論・工業経営論・生産管理 民法 西洋経済史 会計学・簿記・監査論 経営総論・財務管理・予算統制 経済史総論・日本経済史・日本経済論・工業経済論 経済学史・商業経済論	⇒東京大 ⇒大阪大 ⇒中央大 [学長] ⇒青山学院大 ⇒神奈川大 ⇒一橋大 [学長] [学長]
	講師	桑原 源次 宮島 宏志郎* 若杉 明 渡辺 陽一*	生産管理 証券市場論 会計学・原価計算 会計学・経営分析	⇒横浜国大
短期大学 80	教授	新関 寛夫 高橋 芳蔵*	商法・憲法 会計学・簿記学・監査論	⇒埼玉大
	講師	渡辺 一雄	英語・商業英語	

第二期梁山泊 キー・パーソン＝小林昇

各グループ小頭(?) 近経＝中村嘉吉、マル経＝大石嘉一郎、経営会計＝矢島基臣
卒業生教官(*)の業績の多く、別途配付の『研究者総覧』参照、以下、「我田」に限定。

【経済史・日本経済論分野】

〔庄司吉之助〕著書・編書・資料編纂など、あまりにも膨大(数十点) なため、歴史春秋社刊『庄司吉之助著作集』をもって、これに代える。

『著作集 1—近代福島農業史・福島県農会史』(1981)/ 『同 2——半田銀山史』(1982)/ 『同 3——会津藩政史の研究』(1985)/ 『同 4——近代福島県養蚕・製糸業史』(1986)/ 『同 5——福島の民俗と伝承』(1985)。

とくに会津農書など原資料や古文書の発掘、一揆・米騒動・自由民権運動・労働運動など民衆運動の研究、養蚕・製糸業など地場産業の歴史、さらには地方史・地域経済史研究全般で驚異的業績。

〔羽鳥卓也〕『近世封建社会の構造』(藤田五郎と共著, 1951, 御茶の水書房) /

『近世日本社会史研究』(未来社, 1954)。

〔大石嘉一郎〕『日本地方行政史序説——自由民権と地方自治制』(御茶の水書房 1961)/ 『自由民権と大隈・松方財政』(1989) / 『近代日本の地方自治』(1990)/ 『日本資本主義の構造と展開』(1998)/ 『日本資本主義史論』(199

9)/『日本近代史への視座』(2003、これら何れも東大出版会) その他編共著多数。

[山田 舜]『日本封建制の構造分析』(未来社, 1956)/『福島県の歴史』(小林清治と共著、山川出版, 1971)、その他、編共著。

[星埜 惇]『日本農業構造の分析』(1955)/『日本農業発展の論理』(1960)/『社会構成体移行論序説』(1969)/『国家移行論の展開』(1980)/『日本戦後国家の段階と性格』(1988, 以上いずれも未来社)。

[諸田 實]『ドイツ初期資本主義研究』(有斐閣, 1967)/『クルップ——ドイツ兵器王国の栄光と崩壊』(東洋経済新報社, 1970)/『ドイツ 関税同盟の成立』(1989)/『フッカー家の遺産』(1989)/『フッカー家の時代』(1998)/、いずれも有斐閣他、共著・編著・訳書。

[補・吉岡昭彦]『地主制の形成: 絶対王制の基盤』(創元歴史新書, 1957)/『イギリス地主(～1955) 制の研究』(未来社, 1967)/『イノトとイギリス』(岩波ジュニア新書, 1975)/『近代イギリス経済史』(岩波全書, 1981)/『歴史への旅』(未来社, 1990)/『帝国主義と国際通貨体制』(名古屋大出版会, 1999)、その他、共編著。

【政治経済学・経済学史分野】

[羽鳥卓也]『市民革命思想の展開——古典派経済学成立史序説』(御茶の水書房, 1957)/『古典派蓄積論の研究』(1965)/『古典派経済学の基本問題——蓄積論におけるスミス・マルクス・リカード——』(1972)/『リカード研究——価値と分配の理論——』(未来社, 1982)/『「国富論」研究』以上、未来社, 1990)/『リカードの理論圏』(世界書院, 1995)。

[渡辺源次郎]*『イギリス初期重商主義研究』(未来社, 1959)。

[田添京二]『サ・ジェイムズ・スチュアートの経済学』(八潮社 1990)/『欧州経済学史の群像』(白桃書房, 1995)。

[富塚良三]『恐慌論研究』(1972)/『蓄積論研究——古典学派とマルクス』(1965), 以上いずれも未来社)/『経済学原理——「資本論」体系の展開』(1970)/『経済原論——資本主義経済の構造と動態——』(1972、後の二点、三和書房、他に編著『資本論体系』(有斐閣, 全10巻・11冊、1984-2001)/『再生産論研究』(中央大学出版会, 2007)。

[諸田 實]『フリードリヒ・リスト と彼の時代——国民経済学の成立』(2003)/『晩年のフリードリヒ・リスト——ドイツ 関税同盟の進路』(2007、リストの関税同盟新聞』(2012, 何れも有斐閣)。

【備考】切磋琢磨——世代間論争の歴史、争点のあるところ要点あり

①山田・吉岡対大塚・岡田の地主制論争(1954 ～)

[参照] 安孫子麟「地主制論争」(『経済学辞典』大月書店, 1979)

②『商学論集』舞台とする熊谷対富塚の相対的過剰人口論争

[参照] 熊谷尚夫『資本主義と雇用』序言、富塚論文、前掲『蓄積論研究』および岸本英太郎『資本主義と失業』(日本評論新社, 1957)に再録

[補遺] 藤田対羽鳥

[蛇足] ②富塚対吉原の再生産軌道の動態分析をめぐる論争

[参照] 吉原泰助「わが国における<再生産論>論争」(富塚・井村編『資本論体系 4 資本の流通・再生産』, 有斐閣, 1990)

[余滴] 小林昇、こけし裁判

【V】経済学の古典・準古典の学史貫通的な邦訳

原著者	原典	原典刊年	訳者	訳書出版社
T. マン	・ <u>外国貿易によるイングランドの財宝</u> (1664)	渡辺源次郎		東大出版会, 1965
C. ダウ	・ <u>東インド貿易論</u> (1696)		田添京二 渡辺源次郎	東大出版会, 1966
J. ハリス	・ <u>貨幣・铸貨論</u> (1757-58)		小林昇	東大出版会, 1975
J. スチュアート	・ <u>経済の原理</u> (1767)		小林昇監訳	名大出版会, 1993
F. ケー	・ <u>諸論稿</u> (1756-68) [ワケン版全集, 1888]		坂田太郎	春秋社,
	『経済表以前の諸論稿』, 1950、『経済表』, 1956			
デュロ	・ <u>自治体に関する覚書</u> (1775) [復刻]		渡辺恭彦	『商学論集』 (1980)
A. スミス	・ <u>国富論</u> (1776)		田添京二 (共訳)	中央公論社, 1969
D. リカード	・ <u>経済学および課税の原理</u> (1817)		羽鳥卓也 (共訳)	河出書房新社, 1964
F. リスト	・ <u>経済学の国民的体系</u> (1841)		小林昇	岩波書店, 1970
	・ <u>農地制度論</u> (1842)		小林昇	古典文庫, 1949 岩波文庫, 1974
K. メンガー	・ <u>経済学の方法に関する研究</u> (1883)		福井孝治 (共訳)	岩波文庫, 1939
K. マルクス	・ <u>資本論第二巻第二分冊</u> (1885)		米田康彦 (他、卒)	新日本出版
	卒 = 吉原義雄——後藤康夫 (大21), 花田弘一 (大21), 赤間道夫 (大23)			
J. G. K.	・ <u>価値・資本及び地代</u> (1893)		北野熊喜男	日本評論社, 1937
ウィケル	・ <u>利子と物価</u> (1898)		北野熊喜男 (共訳)	東洋経済新報, 1939
M. ウェバー	・ <u>ロッシェー と ケー</u> (1903—06)		松井秀親	未来社, 1955/56
	・ <u>プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神</u>		梶山力	有斐閣, 1938
	(1904—05)		(共訳)	岩波文庫, 1954
	・ <u>R. シュタムラー における唯物史観の「克服」</u>		松井秀親	河出書房新社
	↳ (1907) 『宗教・社会論集』 (世界の大思想-30)			1972
	『社会科学論集』 / (完訳世界の大思想-1)			1982
<この訳文は、当初『商学論集』に「資料」として発表。その他、ウェバー 関係の翻訳が、諸田實教授や樋口徹教授との共訳で『商学論集』に「資料」として数点>				
	・ <u>社会学の方法的原理</u> (1920) 哲学叢書		坂田太郎	岩波書店, 1930
	・ <u>ロシア革命論</u> (1) [論文集]		小島定 (共訳)	名大出版会, 1997
E. バローネ他	・ <u>計画経済の均衡理論</u>		北野熊喜男	増進堂, 1944
	同「集産国家における生産省」 (1908) 他、他の著者計画経済論の訳 2 点収録			
D. H. ロバートソン	・ <u>貨幣</u> (1922)		熊谷尚夫 (共訳)	岩波書店, 1956
W. ランバート	・ <u>高度資本主義</u> (1927)		梶山 力 [部分訳]	有斐閣, 1950
F. ゴッタル	・ <u>経済の本質と根本概念</u> (1933)		福井孝治校閲	岩波文庫, 1942
M. ケインズ	・ <u>人物評伝</u> (1933)		熊谷尚夫 (共訳)	岩波書店, 1959
A. C. ピグー	・ <u>社会主義対資本主義</u> (1937)		北野熊喜男	日本評論社, 1952
	[計画経済と資本経済 (前掲書の一部)]		北野熊喜男	増進堂, 1944
J. R. ヒックス	・ <u>価値と資本</u> (1939)		熊谷尚夫 (共訳)	岩波書店, 1951
J. E. ミッド	・ <u>競争・独占・計画経済</u> (下記の部分訳)		北野熊喜男	敝文館, 1943
	・ <u>経済学入門—分析と政策</u> (1936)		北野熊喜男 (共訳)	東洋経済新報, 1967
T. モルガン	・ <u>所得と雇用</u> (1947)		熊谷尚夫 (共訳)	東洋経済新報, 1951
M. フリードマン	・ <u>資本主義と自由</u> (1962)		熊谷尚夫 (共訳)	マクミラン好学社, 1975

【VI】共同研究＝共同労作の輝ける伝統

(1) 地域研究・日本経済史研究のメッカ

- ① (嚆矢) 中村常次郎編著『川俣機業の構造—輸出羽二重業の実態—』(上)
(岩瀬書店, 1954)

序章	川俣機業の概観……………	中村 常次郎
第一章	川俣機業の流通過程の研究……………	野村 正次
第二章	川俣機業に於ける金融の実態……………	野村 正次
第三章	川俣機業に於ける生産及び経営の構造……………	玉山 勇
第四章	川俣機業の労働事情……………	中村 嘉吉
第五章	川俣機業地帯における農業経営と機業労働力……………	金田 良造
第六章	川俣機業地帯の町村財政……………	小野 賢一
第七章	川俣地方羽二重機業の史的展開……………	庄司 吉之助

- ② (圧巻) 福島大学経済学会編『寄生地主制の研究』(御茶の水書房, 1955)

献辞「故藤田五郎教授にささげる」		
第一章	寄生地主制分析の基準……………	吉岡 昭彦
——代り絶対王政成立期の農民層「分解」——		
第二章	寄生地主制成立の前提……………	山田 舜
——地主手作の成立——		
第三章	寄生地主制の生成 I ……………	庄司 吉之助
——手作地主から寄生地主への移行——		
第四章	寄生地主制の生成 II ……………	大石 嘉一郎
——自由民権運動と寄生地主制——		
第五章	寄生地主制の再編……………	星埜 惇
——農地強制と耕地整理および交換分合——		

(2) 福島大学『資本論』研究会の壮挙

- ① (助走) 米田康彦編著『賃労働と資本講義』(学習の友社, 1978)

第一章	賃金と価格……………	下平尾 勲
第二章	資本と利潤……………	吉原 泰助
第三章	資本の蓄積と支配の拡大……………	相澤 與一
第四章	資本と労働との闘争とその諸結果……………	真木 實彦
第五章	マルサスの賃金論批判——現代のウェストン君たち……………	米田 康彦
第六章	マルスの経済学説の形成と両著作の意義……………	中川 弘

- ② (壮観) —— 三(四) 世代揃い踏み

『講座・資本論の研究』(青木書店, 1980 ~82)

編集顧問 小林昇/ 富塚良三/ 渡辺源次郎

編集委員 相澤與一/ 市川佳宏/ 下平尾勲/ 中川弘/ 真木實彦/ 吉原泰助/
米田康彦

〔(経) = 経済、(教) = 教育、【経】 = 経済元教官、(大○) = 経済卒業生で他大学教員
(外) = 外部参加、いずれも、1980～82年現在〕

第一巻『資本論の形成』(1981)

序章 『資本論』体系の形成	中川 弘 (経)
第一編 社会・歴史認識の形成	
Ⅰ 近代市民社会認識の形成	畑 孝一 (教)
Ⅱ 『資本論』における「将来社会」の「生産形態」像と 「人間解放」論	中川 弘 (経)
——その形成史把握のための理論基準の確定——	
Ⅲ 経済学批判と人間把握	市川佳宏 (経)
Ⅳ 経済学批判と疎外＝物神性論	橋本直樹 (大24)
——経済学的書関係＝諸範疇の転倒(Quidproquo)構造——	
第二編 経済学批判	
Ⅴ 『剰余価値学説史』の視角	田添京二 (経)
Ⅵ マルクスにおける『国富論』前史	小林 昇 【経】
補論 マルクスのリカード価値論批判	渋谷 正 (大21)
Ⅶ マルクスとフランス古典派経済学	吉原泰助 (経)
あとがき	市川佳宏 (経)

第二巻『資本論の分析』(1) (1980)

序章 原基的・基軸的生産関係の分析	米田康彦 (経)
第一編 商品・貨幣	
Ⅰ 生産関係分析としての商品論	吉原泰助 (経)
Ⅱ 価値形態論と交換過程論における矛盾の外化	米田康彦 (経)
Ⅲ 貨幣における矛盾の媒介と展開	下平尾勲 (経)
——貨幣諸形態の関連性——	
補論 恐慌の一般的・抽象的可能性	赤間道夫 (大23)
——「古典派蓄積＝恐慌論争」とマルクス恐慌理論の端初範疇——	
第二編 剰余価値	
Ⅳ 労働力商品の価値・価格おらび労賃	伊部正之 (経)
Ⅴ 剰余価値生産の発展と工場立法	相澤與一 (経)
Ⅵ 生産力展開と剰余価値生産	北村洋基 (経)
Ⅶ 領有法則の展開	中川 弘 (経)
——論争の一断面についての検討・試論——	
特論 価値表現の「回り道」の論理と交換過程の矛盾	富塚良三 【経】
——久留間鮫造著『貨幣論』によせて——	
あとがき	米田康彦 (経)

第三卷『資本論の分析』(2)(1982)

序章 再生産・蓄積の動態分析	吉原泰助 (経)
第一編 相対的過剰人口・蓄積	
Ⅰ 資本蓄積と相対的過剰人口	篠筥憲爾 (教)
補論1 相対的過剰人口論争小史	荒井壽夫 (大22)
Ⅱ 社会的貧困化と資本制的蓄積の一般法則	相澤與一 (経)
Ⅲ 資本＝賃労働関係の本源的創出	山田 舜 (経)
補論2 ヨーロッパ 原始蓄積の一局面	中沢勝三 (大17)
第二編 再生産表式・恐慌	
Ⅳ 再生産表式における総過程分析	後藤康夫 (大21)
Ⅴ 表式分析と「内在的矛盾」の論定	吉原泰助 (経)
Ⅵ 恐慌の必然性の論定	松崎 透 (外)
Ⅶ 恐慌論体系の構成	富塚良三 【経】
あとがき	相澤與一 (経)

第四卷『資本論の分析』(3)(1980)

序章 総過程＝分枝的生産関係の分析とその一層の展開	下平尾勲 (経)
第一編 利潤・利子・地代——展開、世界市場	
Ⅰ 内的諸矛盾の隠蔽としての価格・利潤	米田康彦 (経)
Ⅱ 資本の蓄積と信用制度	下平尾勲 (経)
Ⅲ 土地所有の独占と絶対地代	飯島充男 (経)
補論1 土地所有の史的展開	吉村仁作 (教)
——土地把握表示の三形態について——	
Ⅳ 『資本論』における世界市場論	珠玖拓治 (経)
第二編 階級関係と国家	
Ⅴ 資本主義的な生産と蓄積における労働者階級の主体形成	相澤與一 (経)
Ⅵ 階級および階級闘争	伊藤宏之 (教)
——その政治経済学的基礎についての覚え書——	
Ⅶ 国家の死滅	松井秀親 (経)
——『国家と革命』第五章・覚え書——	
補論2 ロシアの変革とレーニン理論	小島 定 (経)
あとがき	下平尾勲 (経)

第五卷『資本論の発展』(1980)

序章 世界史の現段階把握の基礎視座	真木實彦 (経)
第一編 『資本論』と現代資本主義	
Ⅰ 全般的危機論と『帝国主義論』	珠玖拓治 (経)
Ⅱ 現代資本主義の理論と構造	北村洋基 (経)
第二編 『資本論』と資本主義分析	
Ⅲ ロシア 資本主義論争	伊藤昌太 (教)
Ⅳ 戦前日本資本主義論争の序曲	山田 舜 (経)

V 戦後日本資本主義分析の展開と深化	安富邦雄 (経)
第二編 『資本論』と変革	
VI 社会構成体とその移行	星 埜 惇 (経)
VII 『資本論』における「未来社会」の把握	真木實彦 (経)
補論 <農業を基調とする> 総方針の意味について	藤村俊郎 (経)
あとがき	真木實彦 (経)

(3) 公開講座の継承

①山田舜編

『福島県の産業と経済——その歴史と現状』 (日本経済評論社, 1980)

まえがき (1979年夏休み二週間・公開講座)	学部長・山田 舜
第一部 歴史	
序章 福島県の経済と庶民の生活	学長・渡辺源次郎
——序論に代えて——	
第1章 明治の福島県	山田 舜
第2章 昭和恐慌下の福島県の産業経済	安富邦雄
第3章 福島県における1949年夏	相澤興一
第二部 地域開発	
第4章 福島県産業構造の変化と問題点	真木實彦
第5章 電源開発と福島県	北村洋基
第6章 人口移動と過疎問題	田添京二
第三部 農漁業	
第7章 福島の農民のあゆみ	星 埜 惇
第8章 福島県農業の現状と展望	飯島充男
第9章 200 海里と福島県漁業	宮島宏志郎
第四部 商業	
第10章 大型店の進出と地域商業	西元良行
第11章 福島市における商業の現況と展望	三宅皓士
第五部 財政・金融	
第12章 福島県における地域開発と財政	町田俊彦
第13章 福島県の産業と金融	下平尾勲
あとがき	下平尾勲

②福島大学東北経済研究所編

『新しい時代の地域づくり』 (八朔社, 1988)

まえがき (1987年公開講座)	学部長・真木實彦
I 今、地域をとりまく状況は	
1章 東北地域振興の歴史と課題	真木實彦
2章 1980年代における福島県の産業・経済	町田俊彦
3章 地域開発と「民間活力の活用」——法的問題を中心として——	晴山一穂
II まちづくり、むらづくり最前線	
4章 福島の駅前再開発と商業近代化の流れ	山川充夫

5章	地域小売業の現状と動向——福島県を事例として……………	小林真一
6章	商店街の再開発におけるハードとソフト……………	三宅皓士
7章	むらづくり運動と今後の展開……………	守友裕一
III	新時代の地域振興を求めて	
8章	地域における文化活動……………	星野珙二
9章	情報化と地域振興……………	新家健精
10章	地域づくりの共同……………	清水修二
11章	21世紀にむけての地域づくり……………	下平尾勲
	あとがき……………	所長・下平尾勲

③福島大学地域研究センター編

『国家をこえて地域をひらく——福島発・地域づくり新論——』（八朔社, 1995）
 （行）＝行政社会学部

まえがき……………	センター長・新家健精（経）
I 仕事——経済環境と地域経済	
1章 日本経済の行く先——社会の高齢化とマクロ経済環境……………	片岡孝夫（経）
2章 東北地域の産業経済の枠組みの変化をどうみるか……………	下平尾勲（経）
II 暮らし——生活と文化	
3章 生命の質・生活の質の経済学をめざして……………	藤原一哉（経）
4章 地域からの文化論……………	久我和巳（行）
III まちづくり1——都市と農村	
5章 商業活性化とまちづくり……………	新家健精（経）
6章 ルーラルリズムとは何か、それは何をめざしているのか……………	守友裕一（経）
IV まちづくり2——公共と参加	
7章 いまなぜ地方分権か……………	市川喜崇（行）
8章 男女協同参画型社会と地方分権……………	栗原るみ（行）
おわりにかえて……………	栗原るみ（行）

（4）集積効果としての地域論の開花

（下平尾・鈴木浩氏などの単著、その他、他学部中心の編著を除く）

①下平尾勲編

『共生と連携の地域創造——企業は地域で何ができるか』（八朔社, 1995）

まえがき……………	下平尾勲（経）
第1章 企業と地域との共生をめぐる諸問題……………	下平尾勲（経）
第2章 地方における連携型産業集積……………	山川充夫（経）
第3章 地域経済格差と地域産業の機能の差異……………	外部
第4章 立地企業の雇用を通じる地域経済との連携……………	町田俊彦（経）
第5章 地元企業のフィランソピー戦略による地域創造……………	飯田史彦（経）
	——低成長時代における地域社会と企業との共生関係をさぐる——
第6章 連携型地域形成と公・民パートナーシップ……………	守友裕一（経）
	——第三セクターの展開を主として——
第7章 連携型地域振興と地方自治体……………	清水修二（経）

第8章 企業の地域連携戦略……………	高田敏文 (経)
——宮泉銘醸株式会社と前田製管株式会社——	

②福島大学地域研究センター編

『グローバル化と地域—21世紀福島からの発信』 (八朔社, 2000)

[行] = 元経済在籍

はしがき……………	斉藤勝弥 (行)
序章 新世紀・福島の発展段階……………	下平尾勲 (経)
第Ⅰ部 グローバル化と産業の展望	
第1章 WTO 体制下の福島県農業と中山間地域農政……………	守友裕一 (経)
第2章 「国際化」の進展と福島県の工業……………	末吉健治 (経)
第3章 国際競争下の地場産業……………	初澤敏生 (教)
第4章 県内中小企業にみくベンチャー事業の展開……………	安西幹夫 (経)
第5章 地方都市中心商店街の空洞化と再構築への課題……………	山川充夫 (経)
第6章 ビッグバンと福島の金融……………	漆崎健治 (経)
第7章 情報化と福島の産業……………	新家健精 (経)
第Ⅱ部 ローカル化と地域の課題	
第8章 地方分権と住民の課題……………	市川喜崇 (行)
第9章 福島県の地方都市問題……………	鈴木 浩 (行)
第10章 福島県の過疎対策……………	松野光伸 (行)
第11章 電源開発と地域の論理……………	清水修二 (経)
第Ⅲ部 ネットワークと地域づくり	
第12章 福島県の地域コミュニティ……………	兼田 繁 [行]
第13章 環境問題と地域の論理 —廃棄物問題を中心に— ……	中井勝巳 [行]
第14章 情報化と県民の暮らし……………	星野珙二 (経)
第15章 地域社会にける子育て・文化の協同……………	境野健児 (行)
第16章 文化的環境としての地域文化の創生……………	辻みどり (行)
——メガトライフ 形成による表象空間の再編成を中心に——	

③清水修二・小山良太・下平尾勲編著

『あすの地域論—「自治と人権の地域づくり」のために—』 (八朔社, 2008)

(理) = 共生システム理工学類、(研) = 福大地域創造支援センター、[理] 旧経済。

序章 地域論の方法と課題……………	清水修二 (経)
第Ⅰ部 地域問題と政策のあり方	
第1章 地域開発から地域づくりへ……………	小山良太 (経)
第2章 グローバリゼーションと地域産業政策……………	柳井雅也 (大30)
第3章 都市の階層と格差問題……………	藤本典嗣 (理)
第4章 商店街振興から商業まちづくりへ……………	山川充夫 (経)
第5章 国際化農政と地域の農業……………	飯島充男 (経)
第6章 少子高齢化と福祉のまちづくり……………	清水修二 (経)
第Ⅱ部 地域づくりの方法と担い手	
第7章 「循環・共生」と持続可能な地域づくり……………	塩谷弘康 (行)

第8章	内発的発展の理論と実践	守友裕一 [経]
第9章	地域金融と域内経済循環	佐藤英雄 (研)
第10章	地方自治と行財政改革	清水修二 (経)
第11章	文化による地域づくり	星野珙二 [理]
第12章	地域住民運動とNPO	牧田 実 (教)
終章	地産地消のすすめ	下平尾勲 (経)

(5) 時代と向き合う共同研究

① 新家健精・星野珙二編著

『情報化と社会』(八朔社, 2000)

I 総論		
< 1章・3章・5章・6章略(外部) >		
2章	「情報化社会」をめぐる論点	星野珙二 (経)
4章	情報の経済学	新家健精 (経)
II 現代社会と情報化		
7章	教育とコンピュータ	三石初雄 (教)
8章	行政と情報(1)——生活・国土・環境・統計——	松井 稔 [行]
9章	行政と情報(2)——情報公開制度と情報保護制度——	下山憲治 (行)
10章	政策形成と情報	竹内恵行 [経]
11章	情報化の進展と労働	北村洋基 [経]
12章	経営システムと情報	鈴木康彦 (経)
13章	生産・流通におけるコンピュータの活用	董 彦文 (経)
III 情報技術の展望		
14章	電気通信と放送	新家健精 (経)
15章	インターネットの利用	村山武彦 (行)
< 16章・19章略(外部) >		
17章	ファクトリー・オートメーション	横山雅夫 (行)
18章	人工知能の話題から	中山 昭 (行)
20章	情報処理技術の今後を考える	星野珙二 (経)

② 福島大学国際経済研究会編

『21世紀世界経済の展望』(八朔社, 2004) <——> = 出版時、他大学移籍

まえがき		下平尾勲 (経)
第1部 アメリカ		
第1章	現代アメリカのオールド・エコノミー	平野 健 <経>
第2章	1990年代のアメリカ経済の展開と経済改革	十河利明 (経)
第3章	アメリカの経常収支赤字とサステナビリティ	井上 博 <経>
第4章	米国繊維・衣料産業と対中・中米・アジア地域	高田裕憲 (経)
第2部 ヨーロッパ		
第5章	1990年代ヨーロッパ先進経済地域の産業構造再編	森 良次 (経)
第3部 アジア		
第6章	グローバリゼーションと東アジア地域統合	佐野孝治 (経)

第7章 中国の「比較優位」戦略と農村開発の課題……………	菅沼圭輔（経）
第8章 日米経済摩擦と日本経済の再編……………	下平尾勲（経）
第4部 展望	
第9章 戦後生産力の独自の性格……………	後藤康夫（経）

【Ⅶ】『商学論集』の権威

—— 学界第一線の研究者の寄稿先・学界登龍門としての『商学論集』 ——
 [除く現・元教官/ 卒業生/ 学内他学部教官]
 [49巻=1980年（ぼぼ森合時代）までを素材に]

一桁代(1930 ～1938)

- 阿部光次 「満州における労働争議」 [1]
 萩原三博 「旧上田藩に於ける蚕種商政策に就いて」 (1)
 塩沢 精 「蒟蒻に関する調査」 [6]
 土屋春雄 「社債の乗替に依る損益計算に就いて」 [6]
 三井定雄 「満州交通事情」 (資料) [8]

10巻代(1939 ～1951)

- 宮川哲郎 「福島市戸数割に基く市民所有の分配」 (資料) [10]

20巻代(1951 ～1961)

- 安孫子麟 「高橋幸八郎・古島敏雄編『養蚕業の発展と地主制』」 (書評) [27-3]
 安藤 洋 「ロスチャイルド『賃金の理論』」 (書評) [24-2]
 石本(島崎)美代子 「心仏経済理論研究序説」 [24-4]
 乾 昭三 「資本主義民法研究会『民法講義——物権法——』」 (書評) [29-1]
 遠藤進之助 「散田に就いての一考察——山田舜氏の批判に答えて」 [24-1]
 大石慎三郎 「山田舜『日本封建制の構造分析』」 (書評) [25-2]
 大谷瑞郎 「農民層分解の研究」 (説苑) [26-4]
 岡本康雄 「経営管理論の新しい展開」 [26-4]
 置塩信雄 「不等価交換の実証——日本経済——」 (研究) [27-3]
 鎌倉 昇 「在庫と金融」 (説苑) [27-4]
 久保芳和 「旧植民地時代とベンジャミン・フランクリン」 [22-1]
 「フランクリンとアイルランド——フランクリンの旧植民地制観補論——」 (資料) [22-4]
 「フランクリンと啓蒙思想」 [25-4]
 「『アメリカ体制』派経済学の完成——H・C ケリーの経済学——」 [28-5]
 久留島陽三 「農地改革と地主制再編について
 ——星埜惇著『日本農業構造の分析』によせて——」 [24-4]
 栗田 健 「イギリスにおける産業別統一協約の成立」 [29-3]
 小島 清 「経済成長と国際収支」 [27-4]
 佐藤 進 「小林昇『重商主義解体期の研究』」 (書評) [24-2]
 篠原三代平 「両大戦間の輸出関数——日本経済」 (研究) [27-3]
 関谷耕一 「日本『社会政策学会』史」 (1)(2) (説苑) [26-4, 27-1]
 竹内幹敏 「吉岡昭彦著『地主制の形成』」 (書評) [26-2]
 建元正弘 「経済成長と交易条件」 (説苑) [27-2]
 「経済成長と交易条件——篠原・小島両教授の垂教に答えて」 [28-1]

- 田中敏弘 「マンデヴィルとシャフツベリー」 [26-1]
「渡辺源次郎著『イギリス初期重商主義研究』」 (書評) [28-1]
- 田中豊治 「イギリス絶対王政の穀物流通規制について」 [27-3]
- 田中真晴 「内田義彦編『古典経済学研究』上巻」 (書評) [26-3]
- 内藤三郎 「製鉄聯合(Stahlwerksverband) をめぐって——第一次世界対戦前、
ドイツ石炭・鉄鋼業に於ける独占の形成と展開——」 [25-3, 4]
- 丹羽邦男 「幕末維新时期の中農層——庄司吉之助氏
『明治維新の村落構造』によせて」 (説苑) [23-3]
- 畠中通雄 「『後進国』経済と失業」 (説苑) [21-4]
- 服部之総 「マニファクトア 論争についての所感」 [21-3]
- 浜林正夫 「ロック 経済思想の社会的基礎」 [22-6]
「小林昇編『イギリス重商主義論』」 (書評) [24-3]
- 原口 清 「大石嘉一郎『日本地方行財政史序説』—自由民権と地方自治制」 [29-4]
- 早川泰正 「投資需要と産出能力——一つの試論——」 [25-3]
- 平瀬已之吉 「小林昇『重商主義の経済理論』」 (書評) [21-2]
「『古典』経済学の基本命題——生理学的解剖——」 (1)(2) [22-2, 3]
- 平田清明 「シモンディの分割地所有論
——経済学的 ロマン主義の特徴づけに寄せて——」 (1)(2) [29-4, 30-1]
- 藤田 晴 「経済成長理論と相対的過剰人口」 [22-2]
- 船山栄一 B. McClenaghan "The Springs of Lavenham and the Suffolk Cloth Trade
in the XVth and XVIth Centuries" (紹介) [25-2]
- 堀江英一 「民富の問題——福島大学経済学会
『寄生地主制の研究』を中心として」 (書評) [24-3]
- 松本達郎 「農村共同体の構造と『豪農』範疇について」 (学界) [20-2]
- 水田 洋 「イギリス重商主義と国家論——リヴァイアソン を中心に——」 [21-1]
「アダム・スミスのあとをおって」 (通信) [24-3]
「アダム・スミスの『蔵書』」 (説苑) (1) — (2) [25-1, 3]
「スミスの、あまりにスミスの」 (書評) [26-4]
- 持田恵三 「庄司吉之助『米騒動の研究』」 (書評) [26-1]
「星 塾 惇『日本農業発展の論理』」 (書評) [29-1]
- 森嶋通夫 「成長経済における完全雇用政策」 (説苑) [22-3]
「『資本主義経済の変動理論』について」 (説苑) [24-2]
- 矢木明夫 「羽鳥卓也『近世日本社会史研究』」 (書評) [23-5]
- 山下幸夫 「タイル・デフォーの紀行にあらわれた社会的分業の状態と
Circulation の理論」 [26-3]
- 吉田静一 「リヴァイアソンの社会理論」 (1)(2) [27-1, 27-2]
- 米川伸一 「12・3 世紀イギリスにおける土地保有と土地市場」 [27-3]

30巻代(1961 ~ 1971)

- 赤羽裕 「ジョン・ローの『土地貨幣』論の基本性格
——金融論的視角からの分析——」 [31-4]
- 飯塚一郎 W. I. Taylor "Francis Hatcheson and David Hume as Predecessors of
Adam Smith" (書評) [35-3] (書評) [36-4]
- 石田米子 「菊地貴晴著『中国民族運動の基本構造——対外関係の研究——』」
- 岩城博司 「市場価値の法則と『虚偽の社会的価値』」 [38-3]
- 岩田竜子 「『現代企業』の展開」 [37-1]

- 上野正治 「諸田実著『ドイツ初期資本主義研究』」 (書評) [37-1]
 梅沢 豊 「システム・コントロールの一定式化——マルコフ決定過程——」 [36-4]
 「マルコフ決定問題——Howardの政策反復法——」 [38-3]
 及川 順 「アメリカにおける『戦後戦争後の農業恐慌』」 (上・下) [37-3, 4]
 影山喜一 「新しい技術の体系化と企業活動
 ——石油化学工業の技術的系譜をめぐって——」 [39-2] 「[39-3]
 蔵本喜久 「サー・ジェームズ・スチュアートの『政治経済学原理』——その貨幣信用論分析——」
 斉藤佳倍 「デュルグのいわゆる『尊重価値』 valeur estimative 論について」 (説苑)
 佐藤武彦 「ドイツ初期労働運動史の諸問題」 [33-3]
 ——E. P. トムソン『ドイツ労働者階級の形成』によせて」 (説苑) [36-4]
 下山三郎 「福島県史第11巻——近代資料1」 (書評) [33-1]
 「星埜惇著『社会構成体移行論序説』」 (書評) [38-1]
 菅沼正久 「藤村俊郎著『中国社会主义革命論』」 (書評) [38-1]
 鈴木 嘉 「アメリカにおける勘定理論——その展開と特質に関する一考察——」 [38-4]
 袖崎栄一 「ストライトとロック・アウトの相関性について」 [34-3]
 高島光郎 「ジョン・スチュアート・ミルにおける論理学と経済学」 上・下 [32-1, 2]
 高橋房二 「経済成長と交易条件」 [35-1]
 土屋守章 「管理機構の編成原理」 (1)(2) [33-1, 33-2] 「[34-2]
 遠山 薫 「トマス・マン / 渡辺源次郎訳『外国貿易におけるイギリスの財宝』」 (書評)
 豊倉三千雄 「羽鳥卓也『古典派資本蓄積論の研究』」 (書評) [32-2]
 中村隆英 「大谷竜造著『経気変動の理論』」 (書評) [39-2]
 原島重義 「資本主義民法研究会著『民法講義・民法総則』」 [31-3]
 二村敏子 「アメリカ大学院における経営学教育の実態」 (資料) [32-4]
 「オースティンの源泉について」 [33-3]
 丸山広一 「スチュアート『原理』における労働価値の問題に寄せて」 (説苑) [32-3]
 安川悦子 「ドイツ産業革命の労働者」 [34-1]
 山之内靖 「ドイツ産業予備軍の形成過程」 [31-2]
 若杉啓明 「株価に対する投資・財務政策の効果に関する基礎的考察」 [38-4]

40巻代(1971～1980)

- 飯田裕康 「下平尾勲著『貨幣と信用』」 (書評) [43-3]
 海野八尋 「独占資本主義の価格形成」 (43-1)
 岡部広治 I. Roxbrough, P. O'Brien & J. Roddick, Chile, *The State and Revolution*
 (書評) [47-2]
 奥田 央 「ソビエト二〇年代における経済復興と私的経済活動」 (1)(2) [42-4, 43-2]
 小越洋之助 「相沢与一著『現代最低賃金制論』を読む」 (書評) [44-1]
 加藤誠一 「下平尾勲著『現代伝統産業の研究』」 (書評) [48-1]
 金子 勝 「『安価な政府』と植民地財政——英印財政関係を中心にして——」 [48-3]
 片桐正俊 「アメリカの州・地方財政
 ——第一次世界大戦以前の政府間財政調整と公債——」 [47-4]
 木下富夫 「景気循環と経済成長」 (説苑) [42-4]
 工藤 章 「再建金本位制下のラ化バンク」 [45-3] 「[44-3]
 河野惟隆 「『資本論』の蓄積論研究の一考察——宇野弘蔵教授の所説への疑問」
 伍賀一道 「相沢与一著『現代社会と労働＝社会運動』」 (書評) [49-1]
 済藤友明 「スタンダード石油の多国籍企業としての成立」 (説苑) [47-1]
 佐野 稔 「相沢与一著『ドイツの労資関係と国家』」 (書評) [48-2]

- 竹内常善 「我国における問屋制解体の一断面」 [43-4]
- 橘 博 「桑原源次『科学的管理研究』」 (書評) [43-4]
- 谷口信和 「ワイマル・ナチス 期におけるドイツ 農民層分解の特質」 [45-1]
- 頭川 博 「資本の流通過程と資本の循環範式
——『資本論』第Ⅱ卷第一篇の解明——」 [46-2]
- 「領有法則の論理的転回」 [47-1]
- 都留 康 「恐慌論体系における《生産と消費の矛盾》概念の検討
——富塚・井村・吉原理論を中心として——」 [49-3]
- 野村正實 「ドイツ 革命期における自由労働組合」 [43-3]
- 服部正治 “Boyd Hilton, *Corn, Cash, Commerce: The Economic Policies of the Tory Governments 1815-1830*” [47-2]
- 早坂啓造 「個別的諸資本と競争——生産価格・市場価格序説——」 [45-1]
- 深町郁彌 「下平尾勲著『信用と景気循環』」 (書評) [47-4]
- 藤田幸一郎 「東南ドイツにおける初期労働者農夫の生成」 [42-3]
- 「西北ドイツ農村における『社会問題』の展開」 [46-2]
- 細谷 昂 「唯物論的社会概念の端緒的形成
——『経済学・哲学草稿』と『ミル評註』——」 [44-4]
- 前畑憲子 「『資本論』第二部第三篇の課題と恐慌論との関連についての一考察
——富塚良三氏の『均衡蓄積率の概念』の検討」 [48-1]
- 向井喜典 「現代社会政策研究の課題によせて
——相沢与一『国家独占資本主義と社会政策』を読む——」 (書評) [43-4]
- 室山義正 「戦前期における海軍費の統計的研究」 [48-4]
- 守屋典郎 「紡績工場費と操業度」 [41-4]